

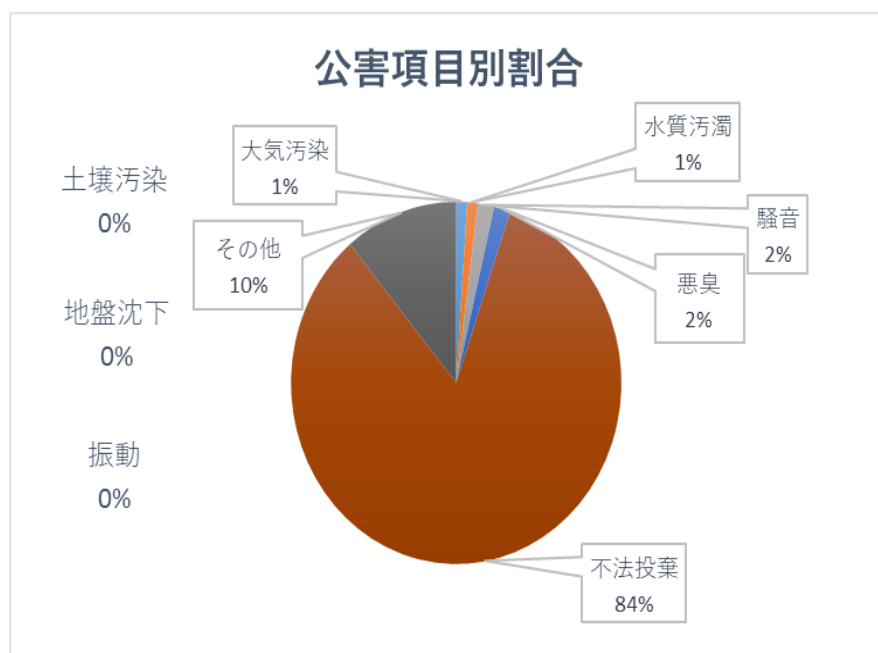
## 7 公害苦情発生状況

平成29年度に受け付けた公害苦情は189件であった。このうち、典型7公害(大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下)に係るものが10件であった。内訳は下の表のとおりであった。

表7-1

分類	公害の種類	件数
典型7公害	大気汚染	2
	水質汚濁	2
	騒音	3
	振動	0
	悪臭	3
	土壌汚染	0
	地盤沈下	0
	小計	10
その他	不法投棄	158
	その他	21
	小計	0
合計		189

図7-1

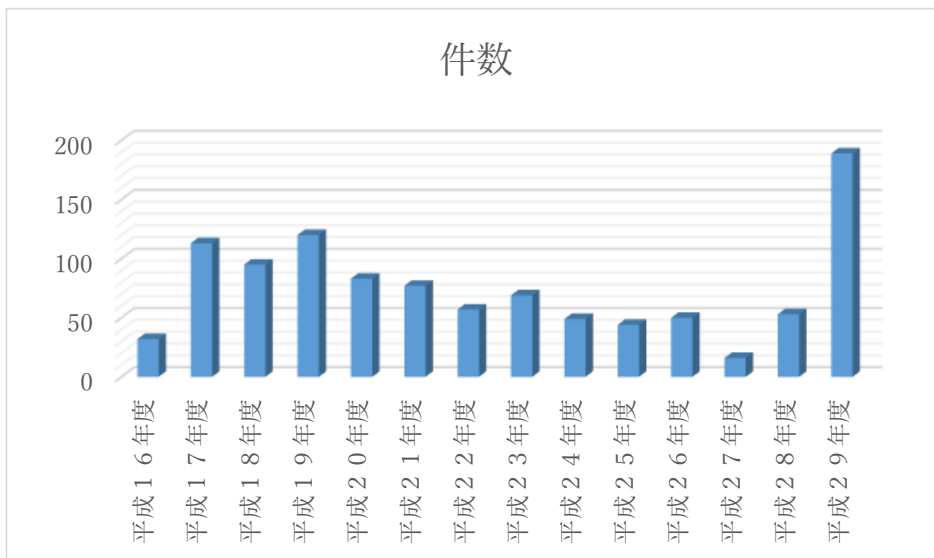


典型7公害のうち、苦情件数が最も多かったのは「悪臭」、「騒音」の各3件であった。「悪臭」の原因は、塗装工場、堆肥によるものであり、1件は不明で継続案件である。「騒音」において、航空機、工事、隣家と、様々な原因であった。次に多かったのが「水質汚濁」、「大気汚染」で2件ずつであった。水質汚濁は組合、工場の排水が原因であった。その他、「振動」「土壌汚染」「地盤沈下」については苦情が無かった。

その他について、不法投棄が158件、その他が21件であった。不法投棄の158件のうち、138件が家庭ごみの投棄によるもので割合としてはかなり多かった。その他の21件の内訳は全て野焼きであった。

表7-2 年度別苦情件数 図7-2

年 度	件数
平成16年度	32
平成17年度	113
平成18年度	95
平成19年度	120
平成20年度	83
平成21年度	77
平成22年度	57
平成23年度	69
平成24年度	49
平成25年度	44
平成26年度	50
平成27年度	16
平成28年度	53
平成29年度	189



過去14年間の年度別苦情件数は、表7-2及び図7-2に示すとおりである。

近年の動向としては、平成19年度から件数は減少傾向にあったが、今年は189件と最多となってしまった。

全体として苦情件数は180件前後となっていて、そのうち158件が不法投棄であった。前年度と比べ不法投棄の件数は増加している。理由として、監視員のパトロールによる強化で発見件数の増加が挙げられる。家庭ごみの不法投棄に関する苦情の割合は7割と高く、市では、不法投棄監視委員によるパトロール、張り紙による警告、監視カメラによる監視など対策を強めている。